

第1学年2組 体育科学習指導案

1 単元名 跳び箱を使った運動遊び

2 運動の特性

跳び箱を使った運動遊びは、いろいろな高さや向きの跳び箱に、跳び乗ったり跳び下りたりすることや、手を着いてまたぎ乗ったり下りたりすることが楽しい運動遊びである。

3 児童の実態 (男子12名 女子7名 計19名)

(1) 知識・技能の状況について

跳び箱を使って活動をした経験について問うと、活動したことがない児童が8名と半数近くいることがわかった。小学校入学前に経験のある児童も、開脚跳びの動きをするのがほとんどだったと回答した。技能調査では「踏み越し」「またぎ乗り・下り」を行った。「踏み越し」では、9割の児童は勢いをつけながら跳び箱を踏み越すことができていた。また、「またぎ乗り」では、助走をつけ両手を前方につき、腰を上げて乗っている児童が7割ほどいた。どちらの調査でも「着地」に対する意識をもっている児童は少なかった。自由に遊ぶ時間を設けた際は、実態調査で行った動きに限らず、跳び箱に跳び乗ったり、跳び越そうとしたりする児童が多数見られた。跳び箱に登った児童が遠くに着地をしようと遊ぶ児童が1名見られたものの、尻もちを着くなどしていた。着地を意識して遊んでいる児童はほとんど見られなかった。

(2) 思考・判断・表現の状況について

本学級の児童はこれまでの学習で、遊び方が書かれた学習カードを活用して、児童自らやってみたい動きを選択し、活動を行ってきた。「自分で場を選んで活動しているか」という質問に対し、全員が「いつもしている」「ときどきしている」と回答した。これまでの学習の様子を見ても、鉄棒を使ってこんな遊びをしたいと学習カードから選択し、活動していた。また、マットを使った運動遊びでも、8割の児童がやりたい場を選んで活動することができていた。「友達によいところを伝えられるか」という質問に対しては、7割の児童ができると回答したが、実際の様子を見ると友達が行った動きに対して、「すごい」「上手」といった抽象的な声かけに留まっていた。中には、友達が活動している様子を見て、「手の向きが違うよ」など、気付いたことを伝え合うことができる児童もいた。「友達のよいところを真似しているか」という質問に対しては、半数の児童は「している」と回答した。一部の児童は、楽しそうな友達の遊び方を見て、真似する様子が見られた。しかし、楽しそうだからとねらいに合った動きではない遊びの仕方を真似し、楽しんでいる児童も多く見られた。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

本学級の児童は体を動かすことが好きな児童が多く、体育の学習が好きかという質問に全員が好きと回答した。休み時間の過ごし方を見ても、外で鬼ごっこをしたり、遊具で遊んだりするなど活発な姿が見られる。また、跳び箱を使った運動遊びの体験をした後に、「跳び箱を使った運動遊びの学習は楽しみか」と問うと、全員が「楽しみ」と回答した。その一方で、「ぶつかる痛そう」などけがを心配する児童や、「跳べない」などできないことへの不安感をもつなど、経験の有無問わず消極

的な気持ちもあることがわかった。「安全に気を付けて学習しているか」「約束やマナーを守れているか」という質問には全員が「できている」と回答した。毎時間の学習で安全に取り組むためのルールづくり、約束の確認を行っているため、意識していると回答したと考えられる。しかし、学習に取り組んでいる様子を見ると、マットの上で向きを考えず転がったため友達とぶつかりそうになったり、試しの体験をしたときも前に友達がいるにも関わらず、跳び越しを行ったりするなど危険な場面も見られた。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○動きのバリエーションを引き出すためのテーマの設定

本学級の鉄棒を使った運動遊びやマットを使った運動遊びの様子を見ると、ある程度いろいろな遊びは思いつくが、そこからさらに遊びを広げる様子は見られない。そこで本単元では、意欲的に活動に取り組む中で、教師がねらった動きを引き出したり、児童が主体的に遊びを広げたりするために、「忍者修行」というテーマを設定する。テーマを設定することで、忍者になりきろうとする気持ちが生まれ、運動遊びを楽しもうとするなど、夢中になって活動することができると考える。さらに忍者というイメージを共有し、よりよい動きを学級全体で確認することで目指す姿が明確になり、さらなる意欲向上につながるだろう。

忍者の世界観を設定することで、遊びに没頭しながら遊び方や動き方のバリエーションを増やすことにつながるのではないかと。様々な動きに触れながら遊ぶ経験をさせていき、動きの大小やスピードを変化させたり、遊び方を工夫したりすることができると考えた。

以上のことから、忍者修行というテーマを設定し、遊びに夢中になりながら動きの幅を広げることができるなど、運動の楽しさを感じられる学習にしていきたい。

○遊びの幅を広げるための「分身の術タイム」の設定

これまでに取り組んだ「鉄棒を使った運動遊び」や「マットを使った運動遊び」の学習では、友達の動きを見て褒めたり、行い方を助言したりする児童の姿が見られた。しかし、遊びの幅を広げられていなかったりする児童や、友達が行っている姿を見ている時間が多くなってしまっていたりする児童の姿も見られた。このような実態から、ペアで友達の動きに着目し、真似したり紹介したりする時間を設け、遊びをさらに広げられるようにしていく。毎時間の終わりにペアで活動する「分身の術タイム」を設け、1時間で楽しかった遊びの共有や、友達と関わり合う楽しさを味わうことができるようにする。そうすることで、それぞれが考えた忍者の動きに触れることができ、遊びの幅を広げられるだろう。

ペアは、これまでの学習の様子や交友関係を基に設定し、毎回変えていく。新たな遊び方に気付

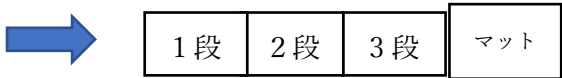
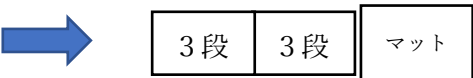
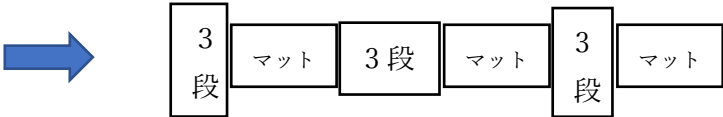
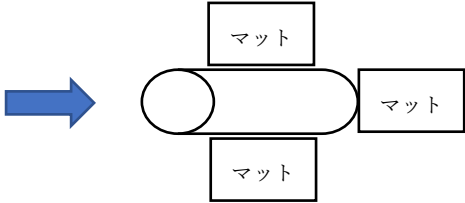
き、考えを広げられると考えた。1年生という発達段階なので、個で夢中になる時間も大切にしつつ、よりよい動きを見付けたり遊び方を広げたりすることも学習として学んでほしいため、この時間を設定する。この活動を通して、もっとこうしたいという願いや思いをもち、遊びを広げながら運動の楽しさを感じられるようにしていきたい。

視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

○「忍者修行」の世界観を生かした場の設定

本単元では、児童が意欲的に取り組めるよう、表1のように様々な工夫した場を用意する。「忍者修行」というテーマから場の名前を児童と命名することで、遊び方をイメージしやすくなり、児童自ら遊び方の工夫ができるようにする。さらに世界観に浸ることができ、遊びに夢中になると考えた。そうすることで、多様な動きを考え出し、跳び箱を使った運動遊びの活動を豊かに展開していけると考える。

〈表1〉

場の様子	予想される遊び方
	・階段のように駆け上がる。 ・動物歩きをする。 ・腕支持で進む。
	・腕支持で移動する。 ・またぎ乗りやまたぎ下り、支持での跳び乗り、跳び下りをする。
	・よじ登る。 ・跳び下りをする。
	・手で体を支え、間を抜ける。 ・支持での跳び乗り、跳び下りをする。 ・二人で同時に跳ぶ。
	・またぎ乗りやまたぎ下り、支持での跳び乗り、跳び下りをする。 ・開脚跳びや横跳び越しをする。
	・横跳び越しをする。 ・またぎ乗る。 ・前転をする。

5 単元の目標

- (1) 跳び箱を使って、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをするなどして遊ぶことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 跳び箱を使った運動遊びを工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりできるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 ②跳び乗りや跳び下りをする ことができる。 ③手を着いてのまたぎ乗りや跳 び乗りなどができる。	①いろいろな遊び方を工夫して いる。 ②友達のよい動きを見付け、真 似しようとしている。 ③工夫した遊び方を友達に伝え ている。	①跳び箱を使った運動遊びに進 んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守ろうとして いる。 ③友達と協力して、仲良く運動 しようとしている。 ④安全に気を付けて準備や片付 けをしようとしている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5 (本時)	6
学習のねらい	ねらいを知り、学習過程への見通しをもつ	遊び方を工夫したり、友達と一緒に遊んだりして楽しもう				
0 ↓ 4 5	オリエンテーション ・学習内の確認 ・場の準備や後片付けの仕方 ・安全について	一流忍者を目指そう ・場の準備、準備運動 ・忍術タイム (様々な場を自ら選び、いろいろな動きをして楽しむ) ・分身の術タイム (ペアで集まり、場を選んで楽しむ) ・振り返り (学習カードに記録するなど、遊びの共有をする)				
						まとめ
知・技		① (観察)	③ (観察・カード)	② (観察・カード)		
思・判・表		② (観察)			③ (観察)	① (観察)
態度	④ (観察)		② (観察)		③ (観察)	① (観察)

8 指導計画 (本時 5 / 6)

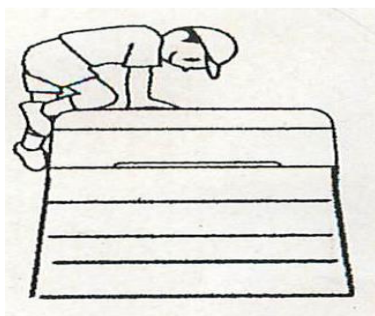
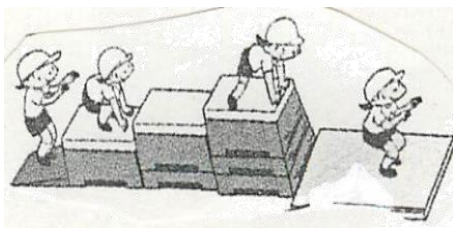
	学習内容と活動	教師の指導・支援 (○) 評価 (◇)
	【オリエンテーション】 1 学習のねらいや運動遊びの行い方を知り、今後の学習の見通しをもつ。 ・学習のねらい ・学習の約束 ・安全面についての確認 ・場の準備、後片付けの仕方 2 準備運動を行う。 ・アザラシ ・クマ歩き ・カエル跳び	○「忍者修行」というテーマ設定を児童に伝え、跳び箱を使った場で、多様な動きをする見通しをもてるようにする。 ○忍者について話し合うことで、イメージを全体で共有する。 ○単元を通して安全に活動するために、場や用具の扱い方について指導する。 ○みんなが楽しく学べるように、学習の約束事を確認する。 ○跳び箱を使った運動遊びに関わる体の部分を重点に、ストレッチを行う。 ○忍者の世界観に浸らせながら活動できるように声をかける。 ○アザラシでは、手を前に出し、腕の力を使って歩くよう声をかける。 ○クマ歩きでは、腰を高くして歩くよう声をかける。

はじめ	3 様々な場で忍術タイムを行う。 ・活動を通して、遊び方の確認や場の安全確認をする。 4 学習の振り返りをする。 ・場の名前を児童と考える。 ・次時の見通しをもつ。 5 協力して場や用具の片付けを行う。	○カエル跳びでは、手を大きく前に着き、跳ぶように声をかける。 ○場や安全確認の仕方を指導し、安全に活動できている児童を称賛する。 ○忍者のように柔らかい着地をしている児童を称賛する。 ○着地の仕方が危ない児童に対して、忍者を意識できるような声かけをして、柔らかい着地を心がけるよう指導する。 ○場のつくりから、どんなことを考えたのか発表し、全体でイメージの共有をする。 ○友達とペアで活動する時間があることを伝え、児童の次時へ意欲を高められるようにする。 ○用具の扱い方に気を付けて、安全に片付けられるように声をかける。 ◇安全に気を付けて準備や片付けをしたり、運動したりしようとしている。【態度④】
なか	1 場や用具の準備を行う。 2 準備運動を行う。 ・アザラシ ・クマ歩き ・カエル跳び 3 学習のねらいと約束を確認する。	<p>○安全に気を付けながら、協力して準備するよう声かけをする。</p> <p>○跳び箱を使った運動遊びに関わる体の部分を重点に、ストレッチを行う。</p> <p>○アザラシでは、手を前に出し、腕の力を使って歩くよう声をかける。</p> <p>○クマ歩きでは、腰を高くして歩くよう声をかける。</p> <p>○カエル跳びでは、手を大きく前に着き、跳ぶように声をかける。</p> <div data-bbox="448 1783 1342 1854" data-cs="2" data-kind="parent">一流忍者を目指そう</div> <div data-kind="ghost"></div> <p>○掲示物を使用しながら前時までに出てきたいろいろな動きを共有する。</p> <p>○分身の術タイムで活動するペアを確認す</p>

〈約束〉

- ・ 行う前に合図の確認をする
- ・ 行い終わったら合図役になる
- ・ 助走の道を横切らない

4 忍術タイムを行う。



る。

○約束の確認をし、安全に取り組む意識をもてるようにする。

○忍術タイムでは、個々で場を選択し、忍者のイメージをもちながら活動するよう声をかける。

○階段状に連結した跳び箱の場では、手を着いて跳び箱に登ったり、足で登ったりするなど、高さが変わっていく楽しさに気付けるようにする。

○勢いよく着地に向かう児童に、静かな着地を意識できるよう助言する。

○連結した跳び箱の場では、手を支点に体を大きく動かして遊ぶ児童を称賛する。

○助走をとって着地しようとする児童に、安全な着地ができるよう助言する。

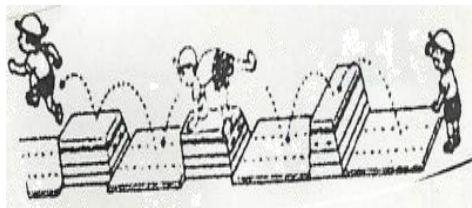
○高い跳び箱の場では、高い所へよじ登ったり、着地の仕方を楽しんだりしている児童を称賛する。

○着地点を示すことで、目的をもって取り組み、安全な着地ができるようにする。

○高さを怖がる児童には、安全に下りるための支援をしたり、高さを低くした場を準備したりする。

○間を開けた跳び箱の場では、堀があり、落ちないようにしようという声かけをする。

○2人同時に跳び箱を跳ぶ児童が出てきた際には、他の児童に紹介する。



5 分身の術タイム

- ・ペアごとに集まり、友達と動きを合わせたり、真似したりして楽しむ。

6 学習の振り返りをする。

- ・楽しかった場や動き
- ・友達のよかった動き

7 協力して場や用具の片付けをする。

○複数の跳び箱が連続して置かれた場では、リズムよく跳び越したり、踏み越したりする児童を称賛する。

○必要に応じて全体で集まったり場ごとに集まったりして動きを共有する。

◇跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 【知・技①】

◇跳び乗りや跳び下りをする事ができる。 【知・技②】

◇手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りなどができる。 【知・技③】

◇いろいろな遊び方を工夫している。 【思・判・表①】

○分身の術タイムを知らせ、導入で確認したペアの友達と場を選んで活動する。

○友達と動きを合わせたり、真似したりしてペアで活動している児童を称賛する。

○友達の動きを見て助言や褒める声かけをしている児童を称賛する。

◇友達のよい動きを見付け、真似しようとしている。 【思・判・表②】

◇工夫した遊び方を友達に伝えている。 【思・判・表③】

◇跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 【態度①】

◇順番やきまりを守ろうとしている。 【態度②】

◇友達と協力して、仲良く運動しようとしている。 【態度③】

○学習カードに活動の楽しかったことや、新しくできた動きについて書くよう声をかける。

○安全に気を付けながら、協力して場や用具の片付けを行う。

まとめ	○ 跳び箱を使った運動遊びを楽しく協力して行うことができたか。 ○ 安全に跳び箱を使った運動遊びを行うことができたか。 ○ 友達のよい動きを見付けたり、真似したりできたか。 ○ 跳び箱を使った運動遊びの行い方を知るとともに、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りなどをすることができたか。
------------	---